

零核時代に2万人近く来場

台湾



若い世代の共感呼ぶ

光るこれ なんだ?
見えない放射能を撮ったよ



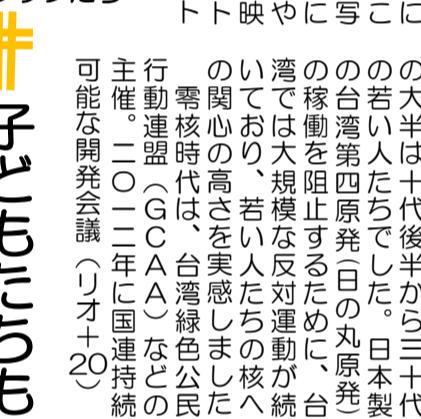
プロデューサーの吳
銘軒さん④とボラン
ティアの弟さん



パワフルでひょうきんな女性スタッフたち



「ヒバクシャ」「ヒバクシャ」と声を
そろえて繰り返して覚える子どもたち



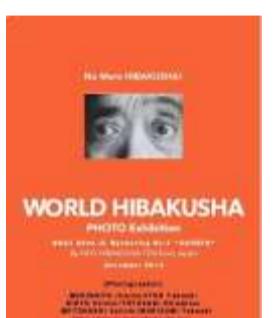
A group of people are gathered in a room, looking at framed pictures on a wall. One person in the foreground is holding a camera, seemingly taking a photo of the exhibits.

写真の解説をする ボランティア

日本人女性がバリ島でミニ写真展



サムライ M A P
ア・バリ島で活躍
しています。二〇一
年十二月には、レー
トランを経営する
本人女性に呼びか
れて、世界ヒバクシ
展のミニ写真展を
催しました。



学子



ナニヤ学園高等部

この言葉を覚えていました。写真を見ながらメモをしたり、感想を書いたりと、みんな心に鑑賞していました。



⑤台湾での宿泊を世話をしていただいた台湾長老教会の鄭君平さん⑥泊めていただいた基督教の高さトーハ



被爆者との様々なエピソード語る
森下一徹 平和に向けて”再稼働

世界ヒバクシャ展顧問の森下一徹は、二〇〇六年以来病気療養を続けますが、最近、病状が若干回復してしまって、ヒバクシャの思いを伝えたいと、四月二十五日と五月五日の二回、トーキイベント「僕が世界ヒバクシャ展を始めたわけ」を東京都内の世界ヒバクシャ展事務所で開催しました。森下が広島、長崎の被爆者を撮り始めたのは、今からちょうど五十年前の夏でした。以来、四十年以上に

わたつて被爆者の写真を撮り続けた一方、世界中のヒバクシャの姿を伝えたいと、二〇〇二年にNPO法人世界ヒバクシャ展を設立し、六人の日本人写真家による写真展を開催してきました。病気療養中のためゆつたりした口調のトークでしたが、被爆者との長い付き合いを振り返り、どんな思いで写真を撮ってきたかを様々なエピソードとともに紹介し、世界ヒバクシャ展を始めた理由を語りました。



2013年秋の台湾での写真展開催に合わせて、サムライMAP台湾語版を発行し、即完売の人気でした。今後も各国語版を発行していく予定で、翻訳、制作などのボランティアを募集中です。事務局の運営、寄付集めなどのボランティアも歓迎です。



